

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和7年11月末現在）

今月の重点活動

■スマート農業 畦畔管理の省力化検討会を開催！

11月18日、将来の担い手不足を見据え、畦畔管理の省力化技術を紹介する検討会を開催した。

当日は40名を超える出席者があり、最新の自動運転草刈機はじめ10機種の草刈機の特徴や、除草剤と草刈機を組み合わせた効果的な除草体系について学んだ。参加者からは、「除草剤と草刈機の体系管理は活用できる」、「多種多様の草刈機を知ることができて良かった」などの感想が聞かれ、好評であった。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、省力化・省人化に関する最新情報を積極的に発信していく。



【検討会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 「農業教育連絡協議会」開催される

11月19日、農業教育の発展と人材育成を目的として、農業教育連絡協議会が飛騨高山高校山田キャンパスで開催された。

当日は、飛騨高山高校職員、飛騨支部の指導農業士、青年農業士、女性農業経営アドバイザー及び飛騨農林事務所職員が参加し、生徒の研究発表について紹介があったほか、インターンシップの受け入れや学生の確保など、農業教育現場の現状と課題について活発な意見交換が行われた。今後も地域の多様な担い手確保に向け、飛騨高山高校との連携の重要性を関係者一同が再確認した。

農業普及課では、12月18日に令和7年度新規就農者激励会の開催を予定しており、地域農業の維持、発展に欠かすことのできない新規就農者の育成と定着のため、引き続き関係機関と協力して活動していく。



【農業教育連絡協議会の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■パプリカ 環境に配慮した病害虫対策技術導入検討会を開催

高山市のパプリカ生産者と関係機関で構成される「グリーンな飛騨パプリカ栽培協議会」では、令和5年度から国の事業を活用しIPMの導入に取り組んでいる。

11月25日には、第4回技術導入検討会を開催し、実証結果や今後の取組み方針について検討した。検討会では、化学農薬散布回数が令和4年度と比較して本年度は平均3.8回削減されたことが報告され、天敵活用の実用性が高いことが確認された。生産者からは「次年度以降も継続して天敵を活用したい。」との声が挙がり、天敵利用、減農薬に対する意識の高さが感じられた。また、品種の検討については、耐病性、着果数等について議論され、次年度に向けた積極的な意見交換が行われた。

農業普及課では、引き続き関係機関と連携しながら、今後も持続可能な農業の実現に向けた取組みを支援していく。



【実証の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■野菜 「高原蔬菜出荷組合全体勉強会」開催される

11月27日、高原蔬菜出荷組合の全体勉強会が、ほうれんそう部会、トマト部会、特産部会の合同で開催された。

勉強会では、今年度の販売実績が組合全体の販売目標を達成したことについて報告があった。農業普及課からは、病害虫の薬剤防除におけるローテーション防除の重要性を中心に研修を行った。さらに事前に組合員から農薬の使用方法や制度面に関する質問が寄せられ、具体的な事例を交えながら回答を行った。部会員からは、現場での実践に役立つ知識を深める良い機会となったとの感想が聞かれた。

農業普及課では、今後も地域農業の維持・発展と、各品目の安定生産および品質向上を目指し、技術支援ならびに経営支援を継続していく。



【研修会の様子】